

児童・生徒の現状・課題

年度末の生徒アンケートを分析すると、学習意欲の高い生徒と、なかなか取り組めない生徒の2極化がある。学習意欲の高い生徒に対して、発展的な課題を提示したり、取り組みにくい生徒に応じた課題を提示したりするなどを検討することが必要であると考えられる。



学び続ける力を育むための重点目標

- 授業の UD 化、協同的探究学習の推進
- ICT の積極的活用
- 特別支援教育、個に応じた指導の充実



児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	78.1	85.0	86.0
②基礎的・基本的なことがらが身に付いてきている	83.0	85.0	85.0

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	81.2	85.0	85.0
②授業のUD化を意識した授業を実施している	90.2	95.0	97.1

具体的な手立て①

本時の目標と振り返りを確実に行う。場・時間の構造化、視覚化を図る。また、ねらいを明確にし、指導計画・方法の改善を進め、生徒一人一人に学習における到達目標を持たせ、意欲的な学習姿勢を培う。

具体的な手立て②

家庭学習課題の増加、家庭学習ノートの活用、デジタル教材の活用、家庭との連絡強化などにより、家庭学習習慣の定着を図る。

具体的な手立て③

ICT などの積極的な活用により、生徒の意欲的な学習姿勢を促す。

総括(7月)

特別支援教育を充実するために研究を行い、どのような生徒でも分かりやすい授業づくりを全校体制で行っている。授業のねらいを明確に提示したり、グループ活動の形態や方法を工夫したり、個に応じた課題の提示をしたり、校内研修会を通して教員同士で共通理解を行った。2学期以降も各教員で研究授業を行い、更なる充実した教育活動を目指す。

総括(1月)

特別支援教育を充実させるための研究を行い、発表会も実施した結果、教員の授業に対するUD化の意識が高まった。だれ一人取り残さないわかりやすい授業の実践を、町田市特別支援教育ハンドブックを活用し、指導の工夫を行い、生徒の自己肯定感が高まった。また基礎・基本の徹底のため、ICTを用いた授業実践も行い、分かる授業を目指し、充実した教育活動を実現することができた。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

すべての授業で、本時の目標、本時の流れ、まとめを生徒に明示し、授業のUD化を行い、どの生徒にも分かりやすい授業つくりを行う。